

特 252

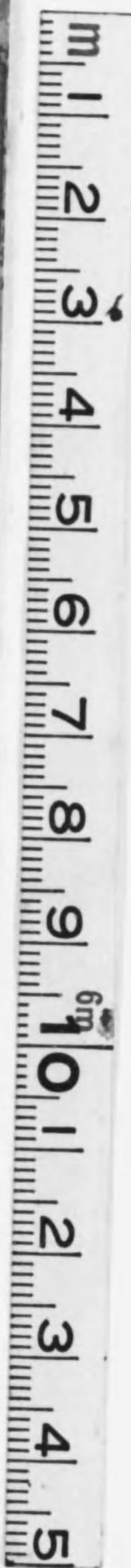
14

本間俊平先生

日立講演集

日立パンフレット第七輯

- ◎日立製作所所員家族の爲めに。
- ◎日立製作所従業員諸君の爲めに。
- ◎日立製作所所員の爲めに。



始



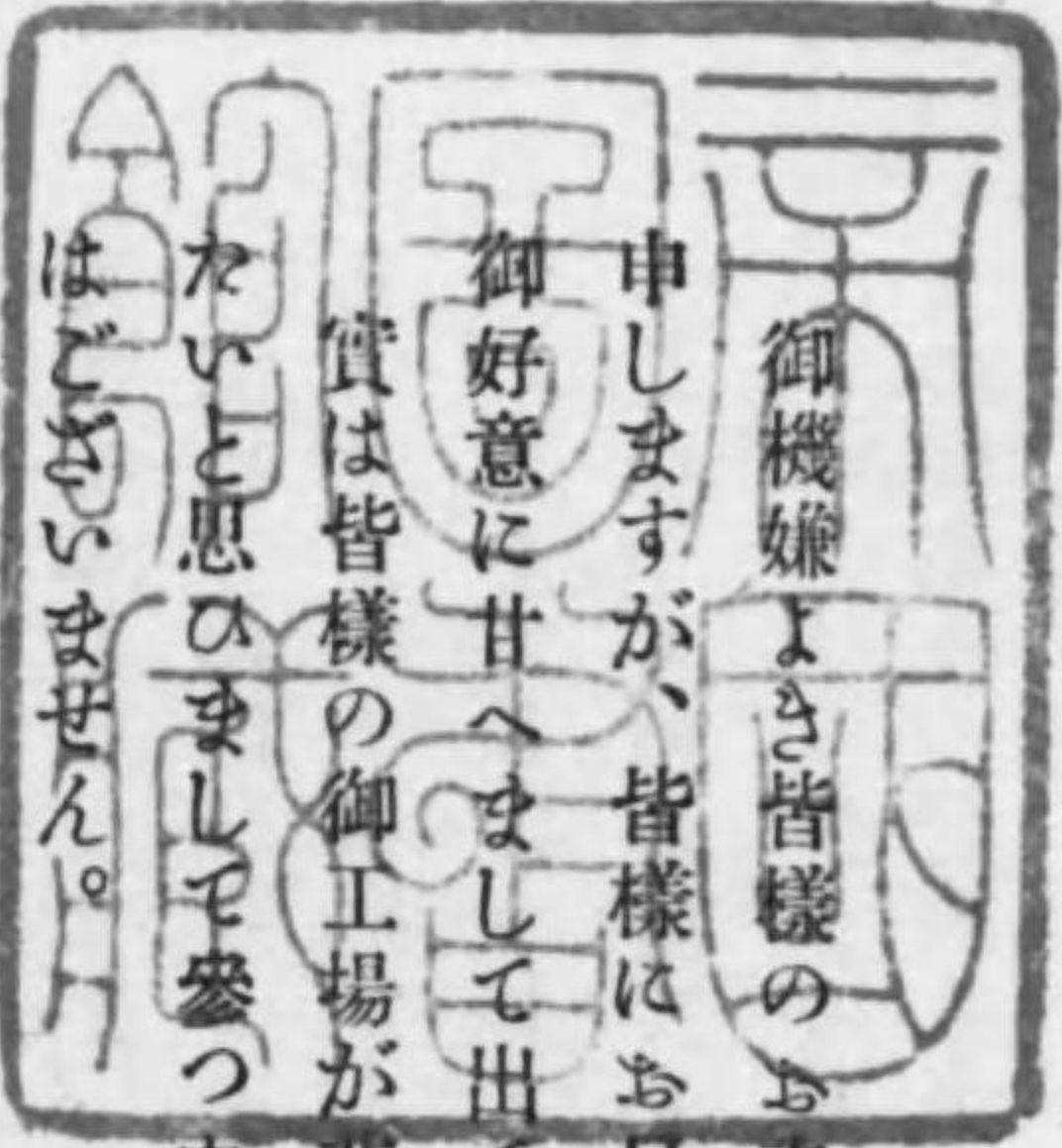
Handwritten text in a rectangular box, oriented vertically. The text is written in a cursive script and includes the following characters from top to bottom:
1. 22
2. 2
3. 2
4. 2
5. 2
6. 2
7. 2

持252
14

日立製作所所員家族の爲めに

(昭和九年十月三十日 諏訪臺俱樂部に於ける講演)

本 間 俊 平



御機嫌よき皆様のお姿に接することが出来まして有難う存じます。何事も三度と申しますが、皆様はお目にかゝるのは今度は五度目ですからどうかと思ひました。御好意に甘へまして出て参りました。

實は皆様の御工場が非常に發展してゐられるので、海岸の新工場を見せていた。たいと思ひました。参つたので、皆様方の前で講演をしやうなど、考へて参つたわけはございません。

私は御存じの通り昭和六年夏にはじめて當地に御厄介になりましたが、その時は世の中が大變不景氣で、大勢の方々が罷免となり、主腦の方々が心細く思つてゐられる時でした、その時分に私は、出すぎた言葉でしたが、決して心細く思ふ必要はなく、



暫らくたつと大變盛な時代が来る、全國から、滿洲から外國からも註文が来て困るくらひになる。註文のおことわり係を置かねばならなくなると申したのでございませう。これを聞かれた方の中には或は、あのおやぢ、ほらを吹くと言つてゐた方があつたかも知れませんが、決してほらでも何でもありません。

工場の事は一々よく知りませんが、事實は大きい變化を示して居ります。こゝに私共の考ふべき事柄があるのでございます。私共は天地宇宙間に於ける驚くべき最高最大の寶をお預かりしてゐる、又めぐまれてゐると申しますか、さういふ偉大なものを多く持つてゐるのであります。

『生』といふ文字はこの上ないよい文字だと思ひます。うまれる、と申します。こゝにお集りの皆様も多くのお子様を生んで居られませう。これはたゞに子供を生むといふ事ばかりでなく人間は實に不思議な靈妙の力を生み出す生命を創造するといふ事でもあります。そしてこの『生む』といふことは男子よりも女子に多いと思ふのでございます。女子は生むことの本体であると思ひます。この事を考へまして、今日は第一番に御婦人方のお集りを願つたのでございました。御婦人方がこの偉大なものを生む

といふことを自覺されば、どん／＼と偉大なものが生れるのです。日立製作所には随分えらい方々が多く居られるでせうが、御婦人方のこの偉大なるものを生む力に比べれば全く小さいもので例へて言へばそれ等の方々は大事業をやるに必要な書記か何かの役目をしてゐるやうなものです。驚くべき偉大なものは御婦人の衷情からこそ創成されるのであります。

先づ第一に皆様が御主人を大切にし、家庭を愛の樂園とし平和にすることを念願されば、そこに驚くべき發明發見の能力が生れて來るので御座います。電話を交換してゐる方でも又どんな地位の低い方でも、女性本來の恵まれたる眞のねうちを自覺してこれを其職分の上にあらはすならば、そこからこの工場の繁榮の原動力が起るのであります。世の中には深い學問をした御婦人も澤山あるが、この事を少しも知つてゐません。昨夜もある子爵の奥様から電話がありその御家庭内の實に大きいなやみに就いて御相談を受けましたが、私共はその大きいなやみ、そのものが私共の生命發展の肥料となることを知らねばなりません。世には女と生れて女とはかく辛いものと運命付けられてゐるものならば、今度生れる時は男に生れねばならぬと考へる方があるかも知

れませんが、これは『生命』といふものゝ本体を知らないためです。

今日はこの生命の事に就いて教へてもいたゞきたく又御相談も致したいのでございます。

人間の『生命』といふものは、そのほんとうの姿はどういふものであるかは多くの人々はよくわからないやうです。私はこうした人間の基本、否宇宙萬物の根底を爲す人間の生命はどういふものであるかといふことを神様は人間の中などなたかに示しておて下さると思ひます。はつきりと示してゐて下さると思ひます。又天地の神がさういふ大切なものをわからないやうにしておく筈がないのです、先づ第一に私は、お釋迦様に之が現れてゐると思ふのです。お釋迦様が御在世の時分に、おそろしくお粗末な人物がゐまして、多くの人を殺してその指を集め、それを髪かざりにして自慢してゐたといふ、さういふ氣の毒な人をお釋迦様は教化せられ、彼の内にある尊い生命をお育てになり遂に彼をして聖人と言はれるやうな人にせられたのでした。之に由つて知るその大小こそあれ、我々もその何割なりが實現出来るものを持つて居るとの事であります。更に驚くべきものは、キリストに現れてゐると思ふのです。私共の周圍の人

々のうちに痛切に感ぜられるのですが、キリストを見ますと彼程貧乏な生活をした方はありません。しかし彼は『俺ほど因果なものはない』と言はれた事は一度もないのです。反つて貧乏に處するに今日のこの美しいお天氣のやうにほがらかな態度で過してゐたのです。私は貧乏をよいといふのではありません、貧乏は人間の凡てを破壊する程の暴力を持つて居る程に人々は恐れて居ります、この人生の大敵の如く考へらるゝ貧乏であつてもキリストの如く處することが出来ないことと思ひます。又病氣にしましても同様でありましてキリストのまわりには常にたくさんの大病人がゐた事を知るので。彼によつて病人は病氣に處する道を示されてゐます。私共の生命は決して病氣に負けてしまふものではないのです。私共夫婦は御覽のやうに大變元氣のやうですが、私は三十年來の痼疾を持つてゐるのです、決して私はからいばりをしてゐるわけではありません。キリストの朝日の前にはこんな病氣など霧のやうに消えうせるのです。病氣があつてもそんなことは問題でなくなるのです。又世の中にはお金の事でたまらない苦しみをしてゐられる人が多いやうです。私は今までに丸はだかになるやうな目に何回も會ひましたが、人はそんな事で負けてしまふものでないといふこ

とを四回経験致しました。

よく災難と申しますが、この『難』といふ字を用ひて『難有』——なんあり——と書いて『ありがたい』といふのです。どんな不幸も、不景氣も、貧乏も来い。『難有』とかいてありがたいといふのです。先年山口縣に居りましたとき或る日曜日尾崎さんと云ふ人から電報が来たのです。私に會ひたいといふのですがどうも尾崎といふ名は私の知人がない、まさか有名な政治家の尾崎行雄氏であらうとは考へてゐなかつたのでした。さうすると間もなく二三臺の自動車が出来て、先頭に尾崎行雄氏の息子さんの士郎さんが来られつゝいて行雄氏が入つて来られて、やはり政治家の尾崎氏だつたと知つて驚いたのです。士郎さんは『お父さんは耳が遠いから大きな聲で話して下さい』と注意される。其頃尾崎さんは議會に提案されて經濟國難、思想國難、何とか國難等に就いて政府を攻撃して居られたので私の家でも聲を高くして論ぜられ政府の施政に就いても大いに論難されてゐましたが、この時私はこの『難』といふ字を書いて見せまして『難とは何だ、難ありと書いてどういふ字だ』と申したのでした。すると尾崎さんは大いに驚いて『なるほど君の云ふことは道理だ。聞きしに勝る偉大な存在

だ』とか言はれて非常に嬉しく話し合つて歸つて行かれたのでした。又先日も大阪や奈良等に行つて、あの大暴風の後の人々にお話し致しましたが、この大難のあとにこれまで日本に無かつた大した生命がのび上る事を豫告致したのでした。

どうか皆さん、どんな困難に會つてもこれに負けることなく、その困難のうちに尊い生命が伸び上つて来ることを考へて進んで行きたいと思ひます。

次に申上げたい事は、私共はどんな人に對しても之を愛し得るやうにならねばなりません。私の妻はある人に腕が落ちる程切られたのでした。随分いたかつたでせうが、この事柄が私共の家をどんなに恵んで行つたが、恵の天の使が出刃庖丁を持つて下りて来たのでした。今も私はその人を有難く思つて居ます。こうした事に由りて人はめい／＼に如來のやうな力をあたへられてそれを持つてゐるといふことを知つたのでした。偉人はそんな痛い目に逢はなくともちやんと知つて居られませうが、平々凡俗の私共は憐れなるかなこの事によつてはじめて分つたのでした。こゝにお集りなつてゐられるこれ丈の御婦人方が今後この工場がどんな不幸に出逢ひましても、互ひに愛し合ふ事が出来れば災禍も幸福となりまして何でもないと思ふのです。この古く

して新しい眞理をお考へ願ひたいと思ひます。又夫婦が一体となつて相愛し合つて進むとき何物をもおそれない忍耐や勇氣が出て來るのでございます。實は先年當地に參つた時に、不景氣を征服するには夫婦一体となつて當らねばならぬと申したのでした。先日我が國に來朝されたマルコニーの如きも偉い人でしたが、之を育てた母なる人の父を助けた偉大な力によると思はれます。彼の家はイタリーの宗教上非常に困難な迫害時代にあたり父母が力を合せてこの災難を征服して行つたのでした。世の家庭にあるすべての災難は、世の中の夫婦たるものゝ一致を招くためにあるのです。夫婦のどちらかに病氣があるといふことは不幸ではあるが、その時はじめて眞の夫婦の愛が生れるのです。愛は災難に出會つて涙の勞苦を分け合ふてはじめて力強いものが出來るのです。マルコニーの父母が神の外にこの困難の世には何物もたよるものなきを知りて祈るのを彼が幼心に知つて不思議なかゞやきを發見したのです。そして彼は線なくも通ずる所のあるものを考へるに到つたのでありませう。『神に通ずる心』それが形をとり電氣的の作用によつて具体化したものと私は考へます。大文學でもさうでせう。ミルトンの失樂園を見ましてもその脊後に驚くべき災難が重なつてゐると思ひま

す。ミルトンが種々の不幸と失明といふ大災難に會つてその不遇のうちに生れで、來たのがこの大文學です。ベトーベンにしてもさうです。音樂家の生命といふべき聽覺を失つてそのうちに數々の大曲を書いたのでした。人間の生命は不幸にさえぎられてたゞきつけられるものではありません。私共はこの不思議な『生命』を恵まれてゐると考へるときに勝利と感謝を覺えるのです。

先達でも昔百萬の會員を有する大團體を主宰してゐた人で今は刑務所につながれてゐる某氏を訪ねましたが私は『いつか私は神様が一番適當とお考になる部屋で君に會ひたいと思つてゐるが、今日その望みが達せられてこゝで君に會ふことが出來たが今君は何を考へてゐるか』と尋ねましたら、『私はすべての人に申譯なく恐縮してゐる、何とかして名譽を回復したいと思ふ』『そんな事ぐらひしか考へてゐないか』私はさう申しまして、あと大した事は考へてゐないやうに思つて残念に思ひ『君はなるほどやりそこなつた。今の世に君をかへり見るものは一人もないかも知れない。しかし君は神様の大きな力をあたへられてゐることを知らねばならない』と申しましたが、彼は非常に喜んで、私の手を握つて『あなた一人が會員になつてくれれば百萬人はどうで

もよい』と申して居りました。私共はこの尊い生命の所有者であることをよく考へたいと思ひます。

私が第一回にこゝへおうかゞひ致しました時こゝで書きましたが『好生』とは愛の源の字だといふことです。『好生』とは『女子生命』といふことです。天地の徳です。生命をたゞへることを天地が喜びたゞへるのです。『生命』を離れてはなりません。昔の人は『生命あつての物だね』と申しますがこれは偉い言葉です。日立が段々と發達して美しい方々が多くお集りのやうですが、これでも『生命』がなくなれば一体どうなります。私共はキリストにもお釋迦様にも似た生命を持つてゐること、御主人も亦之を持つてゐることをはつきりと知りませう。これが工場の、又引いては我が日本の原動力となるものと思ひます。主人がお仕事場から歸つた時の僅かのやさしい言葉も、之がどんなに大きい力となるかわかりません。先般私はつまらぬ書物を書かせてもらひましたが、その書物の最初に、『新時代の夫婦道は、妻は主人を神様の如く愛さねば眞の夫婦道ではない』と書きました。書物にも書きますし、又私は講演でよく、妻は主人に絶対服従といふことを申しますが、さうしますと方々から手紙が來てそれ

はあんまりひどいと言つて反駁して來ますが、おほよそ夫たるものは又妻のために一切を與へてしまふ人でなければ、夫たる資格がないと云ふのです。私は妻が夫のために、夫は妻のために一切を與へてしまふのでなければ、夫でなく妻でないと思ひます。家庭の不幸は夫婦の間にこの缺陷があるためだと考へます。妻は奴隸の如くに考へられてゐるとすれば大なる誤りです。妻にとつては夫はたゞ一つの存在です。これは事業に於ても同じことですが、何、日立工場ばかりが働き場所ではないと思ふやうなことになるればこれ程不幸なことはない。働いてこれ程不愉快なことはないと考へます。信仰に於ても正にその通りで、お釋迦様を信ずる人はこれをおいて外にないのです。この人に『お釋迦様に絶対服従はいけない』とは言へないでせう。天理教でも人の道教團でも、一切を差し出した人は幸福ではないでせうか。一切を捧げる對照を持たない人程不幸な人はない。キリストを信ずる信仰も同じです。妻が夫を唯一と信ずる信仰なくして成立たないのです。夫婦の愛に就いては、一つ働かねばならないと考へましてあのやうな書物を書きました。皆様にはよけいなことかも知れませんが、よく考へていただきたいと思ひます。發明の本源もそこから出るのです。鑛脈を見出す

ことは大切な仕事ですが、もつともつと大した鑛脈を発見せねばなりません。先日住友の金山の話をしました。鴻の舞金山は鑛脈九十尺といふ世界的のもですが、この金山のはじまりを段々調べますととも仲のよい一組の夫婦があつて、この千萬人のお手本ともすべき美しい夫婦愛から縁がついて買はれ、今日のやうな大事業となつたのでした。『かながめは、どこにあるかと、こぼんに聞けば、夫婦仲よい家にある』といふ意味のことを古の人が歌つたが皆さんも、もつともつと夫婦愛を増大し且つ深めていたゞきたいと思ひます。

聖書に『妻なるものよ汝キリストに従ふ如く己の夫に従へ』とあります。聖書は夫に對して神としてつかへよといふ驚くべきことを教へてゐます。又『夫なるものよ、汝キリストの己をすて給ひし如く妻を愛せよ』とあります。或る外人が日本程婦人を馬鹿にする所はないと言つた事がありますが、決してさうではありません。妻を呼ぶに『お神さん』といひますが、神の字があります。尙大衆の社會でも『山の神さま』と申してやはり神があります。日本の太古の天照太神は女性の神様でした。女性を決して尊重しないではありません。

今日まで人間といふものに對する見方は、人間は實に罪の深い、駄目なものだといふ見方であつたが、成程、人間には多くの缺點はあるが、その缺點の外に私共は一樣に神の『生命』を持つてゐると見なければならぬ。

私はよく嫁婿のお世話を致しますが、嫁婿をとるに色々な事を調べることは一切致しません。よく興信所などに依頼して盛に調べますが之には反對です。人間は品物ではない。言葉は當つてゐない又不完全な言ひ方かも知れませんが、人は『人格』を持つてゐるのです。驚くべき高いものを持つてゐるのです。たゞ財産だとか左様なものを調査してみても人の眞髓はわかるものでないのです。私は嫁婿の調査の反對をするものでそんな婚禮は御免をこうむる。それよりも、人格を信じて行ふところに、正しい結婚があると思ひます。さういふ方面の事は興信所ではわからない。私共は信じた時に、ほんとうの姿が現れて来る。そこに不幸もなく病もなく佛教で言ふ極樂淨土が生れるのです。どうしても私共は夫に對して、子供に對して信仰を持つて行かねばなりません。私には子供が多く手数のかゝつたのが多いですが、これはよくあれは悪いといふのはあやまりです。子供が悪いからと言つて、そんな所にばかり目をとめては

なりません。

この間も大阪へ参りました時にある方が宿へ訪ねて來られて、『私は不幸な結婚を致しました。私の夫は大變な放蕩でとても困り切つてゐます』といふのです。私は宿の部屋にあつた人形を出して『あなたは御主人が放蕩でお困りならそんな御主人をよしてこの人形を御主人にしなさい』と申しましたが、その方は夫といふ者に對する考へに非常なあやまりのあつた事を發見されて、大變喜んで歸つて行かれました。

信仰は何も神社佛閣に參ることではありません。夫は妻を、妻は夫を、親は子供を信ずることこれを信仰と申します。昔の人は人には業ごうがあつてとてもそんな事は出來ないと言つたのでしたが今は出來るのです。この鑛山でも今までわからなかつた富が段々とわかつて來てゐるのです。一体この人生と言ふものはどこまで行つても行き詰るといふやうなことはなく目出度いものだと思ひます。先般も私は樺太に行きまして、その際に大暴風に會ひ鐵道が破損して旅行不能となりこの先どうして豫定をすゝめてよいかわからなくて、私に附いて來た方々は非常に困つてしまつたのでした。しかしその所で私は少しも困らず小さい舟にでも乗つて出ようとして平氣でゐました

が、他の方々はとてもそんな無謀は出來ないといふ。すると間もなく小蒸氣が來てそれを利用することを許され豫定は少しも困ることなく行ふことが出來たのでした。正しいことをなす上には必ず神の幸があると私は信じて居ります。

皆さんが主人をうたがひ、友を疑つてゐればとても駄目です。少しでもお互ひに相愛し、夫を愛し子供を愛して行かれるならば今にこの工場も益々盛んになること間違ありません。何だか鮎川さんの代理のやうな事を話してすみませんが、私はさう確信してゐるのでございます。大變長くなりましたが、私の粗末なお話に對して厚い御同情を以ておき、下さいますと感謝申し上げます。

——(祈)——

日立製作所従業員諸君の爲めに

(昭和九年十月三十日 日立製作所温交會俱樂部に於ける講演)

皆さん、尊い一日の勤勞を終りてお疲れになつてゐるところを、私に御同情下さいまして、この静かなる夕お集り下さいまして、私の所感に耳をかたづけ下さる事を感謝致します。

どうぞゆつくりして、膝をくづしてお聞きを願ひます。

さて皆様、私は皆様の日本産業會社、その幹部の方々には長年お世話になつてゐるといふ關係もありますが、そればかりでなく、眞に心から日立には親しみを覚え、日立の皆様の御事業の盛になることを祈つてゐるのでございます。どうか日立から金銀銅の多く出されるやうに、又古より願はれ來りました日本國の誠の姿のこの御事業より現れん事を、日立の皆様の打ち振るハンマーの下から、古の人々がこれでこそ多年願つて來たものだといふ尊い日本の眞の姿の現れんことを願ふものであります。私は

これまで日立へは四度もお邪魔を致し、この所へもこれで二度目でありましたが、その度毎に私の願が達せられてゐるやうに考へられるのでございます。本日も朝から海岸方面の大きい工場を拜見致しまして益々發展する御事業を目のあたり見て參り實に欣快に堪えないのであります。

さて今晚、私は何を皆様に申上げやうかと考へたのであります。私が皆様に申述べたいと思ひますことは、私の今まで體驗して來た事で、他の方々もそれを同様に體驗して眞理だと考へてゐる事柄に就いて述べて見たいと思ひます。幸に何かの足しになれば又日々の皆様の生活の爲になれば幸いです。

第一に申上げたい事は、天地宇宙の間には不絶新しい價值を生む力が働いてゐるといふ事であります。私共の眠つて居る時も絶えず働いてゐるといふ事であります。色々の學問から考へても、又文字は違つても、言ひ表し方が異つても、それを證明せざることなく、又私の小さい實驗からもさうだと考へてゐます。

私共は時に行きつまりを感じ不作や暴風や地震が次から次へと襲つて來て、如何にも心細く考へ、この世の中が全く駄目のやうに考へるのですが、人生は決して失望し

てはならないのであります。

又個人の上にも、どうしてこんな不幸があるかと、どんなに考へてもわけのわからない事が起つて來るのであります。今こゝにお集りの方々の中にも多くこの経験がある事と思ひます。今その経験を持たなくとも將來に於てどうしてこんな不幸がと思はれる困難の峠に必ず出會するものと申してよろしいと思ひます。又私共の家庭に於ても、嫁が、父が、母が、といふ風に色々の不幸が生れ、どう努力し、どう考へても切り開く途がないといふ時に出會ふのです。こんなに辛いことでは、人間を廢業して三原山へでも行きたくなるのです。又世界中を見わたしても、今はどこも非常時ださうです。數日前、英國の重なる實業家が日本へ來られてその人々との會合が大阪にも東京にも開かれました時にも私は直接間接に會ひましてその人々の話をきゝましたが世界中はどこでも非常時だといふことであります。英國でも米國でもそれはひどく困つてゐるさうであります。

個人でも家庭でも社會でもこゝにいふ風では大變困つたことであります。ところが天地の姿は決してさういふものではないのであります。古へ親鸞が天地の眞の姿を考へ

て、人間がほんとうの天地の姿に氣がつけば、今日そのまゝ、淨土の有難い光の中に住むことが出来ることを教へられたのであります。又キリストは、天國はそこに見よかしこに見よといふのでなくお前達の心の中にあるのだと教へられました。が誠にその通りであります。先づ普通に申せば私達の考へが違つてゐてはならないといふ事を教へられたのであります。私共は淨土に住みながら地獄にゐるのだと考へてゐてはならないといふのであります。

又人間はとても高いものを生むために世の中に来てゐるのであります。小さくこの集つてゐられる人々に就いて考へても、この一人々々今までどこにも、英國にも米國にもフランスにも現れてゐない高い尊いものを生み出す力が與へられてゐるのであります。科學であるか、天文學であるか、或は宗教であるかは知れませんが、第一等のものが皆さんの中から生れやうとしてゐるのであります。私自身のつまらない貧乏経験を申し上げますが、私は貧乏の家に生れて小學校も終らないで、小僧に出たのであります。私はこの貧乏な自分を非常に情ない不幸なものだと思つてゐたのであります。ところがあるとき、私は『貧乏でも、小學校は出なくても、お前の心から全世界の誰

も持たないものを現すためにお前は生れて来たのだ」と考へ出したのでありました。友等は何をなまいきなどやら、何を大膽なことをとやら仕方なしの負けおしみだと言つたのでした。又中にはそれはえらい事を考へたと言つた人もありました。人間は面白いもので、心の働く通りになるものです。自分は駄目だと考へればこれもその信仰通りに駄目になります。何千年こゝに働いても高尾さんが昇給してくれないと思つてゐればその通り昇給しない人になります。俺には嫁に来るものもなからうと考へてゐれば嫁もありません。全世界にとつても大きい尊い存在となるものを生み出すことが出来るのだといふ考へを真面目にほめてくれた人もありました。私はたとへどんなものであつても、私から、私自身のみ持つ世界第一等のものが生れて来ると信じるものとなつたのであります。以來このやうに年が寄りまして今でも世界第一等の智慧と力が湧くのだと信じて日々處してゐるのであります。先日東京で或る人が或る事柄に關して『どうもえらいお爺さんだ、どこからそんな力が出るのか』と言つたが私は『出ると信ずるのだ』と言つたのであります。私は今日まで色々この経験を語り、時には烈火の如くなつてこの事を申上げたのであります。これが今まで『本間

の奴らぞを言つた』と言つた人が一人もないのであります。これは誠に間違のない真理であります。私は今この事を謹んで力をこめて申上げたいのであります。

私は日立から、技術の上にも、經濟上の大なる解決法も世界第一等のものが出ると信ずるのであります。この内のたゞ一人でもこれを信じて下されば、形はどういふ風になるか知れませんが現れて来るのであります。すばらしい發明が現れ、能率の進められることが明かであります。どうか信仰によつてこの赤坊を生んでいただきたい。

今の哲學者は宇宙の姿を見て、宇宙萬物の中に人間がその先頭に立つてゐると見るのであります。罪を犯した者も、無學の者も、どんなにつまらないと考へてゐるものも猿よりも何よりも大きいものであることには間違がないのです。各人のもつ力が宇宙の力と結婚して美しい赤坊が出来るのであります。この大創造力が夜も晝も働いてゐるのであります。

私は今までに法律上の宣告を受けたと同様な破産を四回も受けましたが、何もなくなり、時には傘一本もない時がありました。その度毎に今までにない新しい力が私の

心の中に生れたのでありました。私にはその一回々々が實に有難い力の子供を産んでくれたのであります。

このことがらは決して私ばかりでなく、皆さんも同様であります。

この間風水害の大阪に出かけて住友の小倉總理事さんと食事を共にして色々話合つたのでした。その時に申しました。「この度の風水害は住友さん等にとつては實に大損害と言はれてゐますが、どうでもよいといふものが持つて行かれたので、なくてはならないものは何一つ失はれてはゐない」と。秋になれば木の葉が落ちて感傷的になるが、この散り行く葉にはもつと深い真相を見なくてはなりません。木には來年の春と共に若芽を吹き出す大きい準備事業が出来たのです。葉が落ちるのは氣の毒ではあるが來年の花の用意が出来たから今までの古い着物をたゞでくれてしまふのです。仲々氣前よくすてしまふのです。

私共は物の真相とどうでもよい物とをいつしよにしてあわてるのはいけません。物の眞實を見る人に世の眞實の姿が現れるのです。

偉大なる發明家エヂソン。この人を考へますとこの人は世の眞實を見た人です。何

故かと申しますと、先づ第一に彼の母の態度を考へませう。母はその子エヂソンを學校に通はせましたが、その先生は悲しい事に表面のみを見て、身体の弱い彼に成業の見込なしとして家へ歸してしまつたのでした。ところが彼の母はこの身体の弱い低腦の兒を見て、この兒の中にあるものを見出し、之に自ら「いろは」を教へ數を教へたのであります。私共はもつともつと子供に就いては眞實を見なくてはなりません。凡そ人間として生れる者は全世界ともとりかへることが出来ない尊いものです。これによつて全世界が變る程の大きいものが入つて來るのであります。エヂソンの母がその子に見出したものがやがて全世界をうごかす彼の大發明となつたのであります。

又夫婦關係に於ても、夫婦喧嘩で妻の眞相を見てはならぬ、婦人の中には實に驚くべき物を造り出す力があるのです。いかにえらい人でも男は赤坊を生むことが出来ません。これは婦人が天地の驚くべきものを生むといふことを示してゐるのです。私は常に思ふのですが、婦人方には創造の力が、めでたい力があるのだといふことを知りたいのです。こういふ見本を考へればいくらでもあります。西洋に求めずして日本にもいくらでもあります。神功皇后は今にも皇子が生れんとして大艦隊を率ゐられた。

これは女性の偉大さを物語るものです。おそれ多いが天照皇太神は女性の方であります。これによつて女性の中には全世界を統一して立つ力が興へられてゐることを知るのであります。先達宮内省でお話をするやうにとの事で何をお話し申したらよいかと考へました末、光明皇后様の事を申し上げたいとその事績を奈良に調べに参りました。世の中で一番可愛さうなものは癩病を病んでゐる方ですが、光明皇后はこの人々に目を止められたのであります。あの時代にこゝろいふ深刻なことをやられた事は世界に類がありません。承ればあそこに十八の間のある病室を造られたのですが、一つの風呂をたて、千人とか八百人とかの膿を洗はれたのですが、たちまち如來の如く光り輝いたと聞いて居りますが、今の人々はそんな事は科學ではどうだとかこうだとか言ふかも知れませんが、然しながら千人はゑるか二人でも三人でもこんな事を實行するならばはじめてその眞實であつた事が理解されるのであります。

尙色々と思ひますが、これこそ眞の教育家だと言ひますか、我國の恩人親鸞上人をそだてられた其師其師と登つて参りますと奥に輝く者は源信僧都、こゝろいふえらい方がどうして現れたかと申しますと、そのお母さんの精神力から現れたの

であります。父に先立たれた淋しい姿の中にこの子供がどういふ天命を受けて生れ出でしかをその母は考へたのでした。神は人間が子供を持つと同時に、之を完全に育て養ふべき驚くべき力を興へてゐるのです。源信の母はその子供が如何なる使命を持つてこの世に生を享けたるかを考へたのです。そしてこの子は日本の全土を浄土に導く大使命を持つてゐるのだと考へつかれたのです。御年十五才にして彼源信は時の帝後村上天皇に御講義を奉り、天皇の御煩悶を解かれたといふのです。私共は子供を見てもつと眞實を見なければならぬ。子供が喧嘩をして打ち返す力の中には電光石火世を動かす大きな力を持つてゐることを示すのであります。よく學校などで子供のいたづらに對してあまりにやかましく罰則を作つてゐる所がありますが、之は子供に役に立たなくして終ふ。出刃や刀のみが人を殺すものではない事を心しなければなりません。兒童の騒ぐ中に、喧嘩の中に、その子の天命を見出すことが出来るのではないでせうか。

昔モーゼが生れた時には、時の國王が非常に苛酷な嚴命をして子供が生れたならば全部殺せといふ命を出したのでした。その時モーゼが生れたのですがモーゼはとても

美しかつた、モーゼの母はこれを見て、この子供こそイスラヘル人をして長い奴隷の生活より解放し、自由を與へる人だと思つて、蘆の舟を作つて川の中に流したのでした。そして遂にモーゼがイスラヘル人解放の大使命を果したのです。

尙私は源信の母の偉大な點は、子供を教育するに大切な點、即ち親が『お前は電氣屋になれ』とか『商業學校へ行け』と無理に進ませることなくよく天命を達するやうに導いたといふ點です。源信の母はこの小さい子供がたゞ自發的に奉仕者になつてくれるやうにと、神々に詣つたのでした。彼自から奮ひ立つて、比叡山に登らうと申し出るやうに祈つたにちがひありません。彼が自發的に『多くの人々のために奉仕の生活がしたい。出家したい』と願ひ出でた時の彼の母の喜びは如何ばかりであつたか、長い間待ちに待つた谷のうぐいすの一聲を聞いたと思つたであらませう。

要するに天地自然の中に天命を見出すやうになりたいといふ、これが私の願ひなのであります。

も一つお考へ願ひたいのは、我々人間は、人間としてはもう大して生長はしない所まで來たと思ふ點であります。此頃日本中皆さんのやうに逆も美しい方が多く、東京

のデパートあたりでは入口にまづ化粧品にぶつつかるのでありますがいくら化粧品が出來ても人間はこれ以上は大して美しくなる事はなからうと思ひます。美しさに於てもかやうに大して延びますまい。今日以後の人間はどういふやうに延びて行くでせうか。

今後の人間の生長は相互の關係に於て發展すると考へます。例へば私が鎌居さんを心をつくして愛するとなると、私も鎌居さんも今までと別な尊い存在となる。今後の人間の生長はこの相互關係の狀態に變り美しくも大きくもなる、即ち關係人格とでもいふべき方面にあると思ふのであります。本間が學問をしたから偉いとやら博士になつたから偉いといふのではなく關係人格に於て偉くならねばならないのであります。私は高輪北町四十八番地に住んでゐますが、そこには多くの人々が住んでゐるその中に悪い人が一人でもゐればその相互關係人格としての私は何にもならないのであります。私共は他との關係を圓滑にして行くことが大切な事です。

信仰に於ても神を信ずることは大切であるが先づ隣人を信じ愛して行かねばならぬ。隣の泥棒を捨て、おいたのでは何にもなりません。

先程も奥様方に神の如く夫を愛せよと申したのですが、又男子は妻のためには死をもえとわぬ決心を持つことは即ち神を愛することになるのです。私は聖書を讀んで非常に考へさせられた事は『お前が神を拜する前に隣人と喧嘩をしてゐるならば先づ和して然る後に神を拜せよ』と言はれた事ですが、これは實に大變な尊い事です。私共は工場を良くするためには先づ夫婦がよくならねばなりません。又この事をそまつに考へていくら偉くなつても、何もなりません。

今日もこちらへ来る時に新聞を見て室井さんとも話したのですが、東京の市會議員がなぐられたとあります。私が東京へ来た時に市役所を訪ねた事がありますが、その時市の主腦の方々が一人も居ないので、聞いて見ますと皆收容されてゐるとの事です。實に驚き入つた次第でした。私はこれ等の收容者を調べて見ますと、誰一人として夫婦仲のよい人はゐないのでした。誠に考ふべき事だと存じます。世の中に私を『神の人』とか何とか言つて本を出したりしてゐる人がありますが、自分の妻からまことの人だといふ尊敬を拂はれないならば、それは世の中の大ごまかし者です。太鼓のやうにぐわんぐわん大きな聲を出しても何にもなりません。

私は日立の様子を毎週のやうに蔭ながら聞いて、いつも喜んでゐます。皆さんは學者でも何でもないが、そこに何かあることはたしかです。皆さんが誰が見なくとも、自分の使命を見出して働いていたゞきたいと思ひます。

尙お疲れのところ誠にすみませんが、もう一つ断片的ですが聞いていたゞきたいと思ひます。お醫者様が病人に薬を盛る時には、その中に、それだけ用ふれば毒になるやうな薬品も入つてゐること、思ひます。世の中に起る不幸だと思ふ事も、堪えがたい涙をこぼす事柄も私共が信ずるに於て皆仕合はせになるのだといふことを今晚は考へて歸つていたゞきたいのです。

皆様のうちには幸な人もあるでせうが、中には實に深い悩み、親にも子にも言へない不幸に悩んでゐる人もあると思ひますが、それもすべて有難いことだといふことを考へていたゞきたいと思ひます。世の中は善惡の混合では決してないと私は言ひ切りません。そんな馬鹿なこと、云ふ方もあるかも知れませんが、私はこれは絶対に眞理だと思ひます。昔は塞翁が馬といふ諺があつて幸の後には災、災の後には幸があるといふやうな考がありました。之は間違ひです。

烈風の中を飛ぶ鳥は風の強い時には随分ひどいのでせうがああ抵抗をなくするとよいと簡単に考へますが、さうすれば鳥は皆落ちてしまふ。又汽車の摩擦がなければよいと思ふけれどもそれがなければ皆轉覆してしまふ。世の中にあるすべての事は皆よいのだ。今晚我々にのぞんでゐるすべての禍も皆々我々にとつては良いものだ。丁度よいのです。

大變長く色々と申し上げましたが、おそくまで熱心にお聞き下さいまして有難たう存じます。この次に又生きてゐましたらお目にかゝりたいと存じます。今晚懐しい皆様にお目にかゝつてほんとに喜ばしく存じました。有難たうございました。(祈)

日立製作所所員の爲めに

(昭和九年十月三十一日諏訪臺俱樂部に於ける講演)

皆様、皆様の一生懸命御盡力になつてゐられる御姿に又も接することが出来まして非常に光榮に存じます。今日は皆様の工場のあるこちらと拜見致しまして、どんなに皆様が懸命に御仕事のためにとめてゐられるかを目のあたり見せていたゞきまして、幾つもの教訓を與へられたのでございました。

あまり度々こちらへ御邪魔致しまして、實は躊躇致してゐましたが、こちらの方々なり、御事業なりが大變心にはなつかしくて、又もまかり出た次第でございます。少しばかり所感を申し述べさせていたゞきたいと存じます。

私の承知せる、せまき範圍からの考へであります、現在世界の人々が、アメリカ

でもドイツでも同様ですが、一樣に驚異の眼を以て見てゐる一つの驚くべき事があるのです。それは何か、これを深く考へて見たいと思ひます。夫は我が日本帝國の活動ぶりに就いて彼等は奇蹟の如き觀念を持つて見てゐるのであります。そしてその理由を訊ねますれば、それは我が國民がしばしば天災に見舞われてもその大難を蹴とばして、その都度大なる飛躍をつけて來た事に驚いてゐるのであります。そしてその原因がどこにあるかといふことに就いては多くの國々の者が苦心して調べてゐるのであります。御存じの關東大震災、奥丹後の大地震、本年に入りて函館のあの大火事、又方々の旱害や水害、東北地方の冷害のための不作等、ついこの間は大變元氣な風が大阪方面を見舞つたのでした。所が申し上げるまでもなく關東の大地震の慘害を受けて帝都の人々は今や全く面目を改めてあの立派な東京を作り上げたのでした。當時東京の人々は地震に會つた事を大變悲しんでゐたのでした。帝大など立派な金錢に代へがたき多くの書物を焼いてしまつたのですが、その焼あとの中で書物の焼け残つた殘骸を箱の中におさめて見て涙をふかんばかりに悲しんでゐたのでした。その時私は大聲で申したのでした。『皆がその書物を惜しさうに書物の切れつ端を箱の中に入れて悲しん

でゐますが、この大地震は皆が考へるやうな悲しむべき事を持ち來つたのではなく大變なお土産を持つて來たのだ、大地震は八十年目とか七十年目とかに一度來るさうだが私はそんな事ではなく十年に一度でもよい來ればよいと思ふ』と申しましたが、私は我國のこの日本人の中に、どなたかの精神の中に、この大學に何百の書物が消えてもそれよりもつとよい立派な書物を書く人が現れて來る。この大地震は今までの不要なものを掃除してくれたのだと思つてゐます。そればかりではない震災を轉期として今までにない立派なものが出來るやうになつたのです。道路にしても橋にしてもあの大地震があつてくれねばどんなに大騒動をしても出來ない事です。少しの事にも賄賂だとか何だとかあるので、あの様な立派な道路や橋を作るには何百人の懲役人が出來たか知れませんが。天地のすがたを見るにも事業を見るにも、悲觀的方面ばかり見て積極的な方面が見えないやうにならぬやう注意しなければならぬと考へたのでした。今もこの考へに相違はありません。今日も今まで宿で婦人の方々にお目にかゝり色々とお話を拜聴したのでしたが、積極的な方面を見て進んで行かれるやうおすゝめしたのでした。多くの方がこの目出度い方面を考へようとしてないで地獄の方面は

かりを考へてゐるのです。例へば人間の健康にしても、この問題に對する人々の關心は大したもの、色々なことを考へてゐるやうです。この肉体の生命も百年はむづかしいのです。學者の統計書を見ますと人間一生五十年と言はれたけれども今では十九年幾ヶ月だとありまして、今晚この所に集つた方々はたいていもう停年が來てゐるやうでございます。大隈侯は百二十五才まで生きると言はれたがだいぶん早く切り上げられたやうです。私共はいくらがんばつても百まではむづかしい。先日侍從長の鈴木さんの所へ招かれましたが、御母様九十八才になつて尙大變元氣で居られました。かういふ方は珍しいことです。皆さんは工場長の萬才を祝されるであらうと思ひますが、もし工場長が七万才、高島さんが七萬五千才になつたらどうです。今日でさへ人口過剰で苦しんでゐるのです。私共はかやうに考へますとき、今晚も知れない天幕に宿つてゐる間に、私共の内に水や火で消すことの出來ない永遠の生命を見出すために我々の生が與へられたのだと思ひます。

今私が話しかけましたこの偉い日本、世界の驚異である日本には各國とも非常な關心を持つて居ります。私はよいかげんな事を云ふのではありませんが、イギリスでは

内心非常に恐れて日英同盟の機會を願つてゐるのです。そして我が軍部の人々をおそれ色々と手をつくしてゐますが、近き將來にどんな形となつて現れるかわかりません。このやうな日本は將來どうなるか末恐しいのでせう。これには深き仔細があるのです。これをよく考へねばなりません。

先づ第一番に考へねばならない事は皇室の深い御惠です。世界に多くの王室のある中に我が皇室が萬世一系幾千年に何故續いて行くかを考へて見たいのです。これは先づ歴代の天皇の御人格——この言葉は恐れ多いかも知れませんが——神様の心にびつたりと一致してゐたためと私は考へます。尙も一つは私共の祖先、この方達が如來様神様——言葉はどうであつたか知りませんが——天地の神を各國に類まれなる態度で信じ來つたからだと思ひます。例へば親鸞、源信等の方々の信仰の様子を考へていただきたい。この方々は西洋の如何なる聖人に比較してもおとらぬ立派な態度を持つてゐられたのです。

私は何故この日立の地に參つたかに就てはかつて田中博士と共に來た時に申したのでした。それは今も鮎川さんに會ふ毎に語り合ふのですが、この工場長の高尾さん

が驚くべき深い精神の持主だからであります、と同時に又そのお父さん、お母さんの驚くべき精神が存在してゐるからです。これがこの工場にある限りこうした貴い深い遠い信仰の餘徳がこの工場にある限りは天地と共にひつくり返ることなく榮えることを確信致します。私はこれを喜ぶと共にこの工場に来て皆様にお目にかゝるのです。皆さんのうちにも高尾さんの御祖先のやうに、この村からこの國から如來の如き人が生れかしたといふ願が幾千萬年働いてゐるからこそ、この國がこのやうに盛になるのです。私はいつも歎異鈔を読み親鸞の言葉を讀む時に電氣にふれた様な感があるのです。一切が開けて来るのです。この偉大なる精神が山々の中に田畑の中に歌となつて、念佛となつて土の中に埋れてゐるのです。今日この工場の敷地附近を見せていたときました時に土壌を盛に運んでゐるのを見まして、この土にこめられた数多くの精神を思つたのでございました。私は我國のこの田だけに就いても非常な感動を持つてゐるのです。世界中どこにも我國の如き田がないのです。この中に盡くされたる人々の汗の結晶、驚くべき幾千萬の人々の精神がこの土に織り込まれてゐるのです。

岐阜縣の美濃の關といふ所は刀の出來た所ですが今は刀が不用になつてその人々

は落ちぶれてしまつたのですが、その人々が或る時私を訪ねて色々の事を相談されました。その時私は『君達は田を持つてゐるか』と問ひますと『いや大變なひどい泥の田を持つてゐる』といふので尙『どのくらいあるか』と問ひますと『五十歩ぐらひある』といふのです。私はそれ等の人々に家へ歸つてその田の土を用ゐて瓦を造るやうに、さうすればその土から驚くべき事が生れ出るだらうと申しました。今では非常な盛な瓦の製造を行つて立派な他に比類のない品を出してゐるとの事で、先日モカタログを送つて來ましたが、これなど實に大變なことです。工場の土にしまして何百年何千年來我々の祖先が力をこめてこねあげたものでそれに何等の價値のない道理はありません。

この驚くべき寶を残された日本、皇室の上からも、國民それ自体から考へても、この日本に生れて我々が信仰を基として進むならばこの國の一切のもの、文學でも工業でも或はその他のものでも、どんなに目出度いものが創造されるかを考へたい。私共は先づ祖先に習つて信念に重きを置かねばなりません。信仰より信仰に進むことが大切で御座います。私はこの信仰のことに就いて今晚御相談して見たいと思ひます。キ

リストは『人もし全世界を得るとも其生命を失はゞ何の益かあらん』と言はれた。我々は信を失つた時に死んだものと同様になり空の空なるものとなるのだといふ意味です。尙之を考へて見れば人間は全世界よりも尊いといふ意味を教へられてゐます。私は私自身の説ではない、キリストの説に合せて考へさせていたゞくのです。私が此お話をした時或カトリックの坊様が「本間さんそれは人間を餘り高く買かぶり過ぎる」と申しますから「そりや君が餘り人間を低く見過ぎるからだ」と申した事がありました。人一人の生命は全世界の生命である、人は全世界を支配し得るといふ事も含むのです。人はその意志によつて世界を變へ應用化し、作りかへて行く力を持つてゐるのです。私はこの三四年來皆様の工場に來ますが、この土地に驚くべき新文明が創造されつゝあると思ふのです。これはこゝに居られる一人々々の考が集積してさうなるのです。

も一つたつた一つの人格が大文明を作ることと教へられます。古イスラヘル國亡び全部が敵のため捕へられて奴隸となつた時代に、モーゼがたゞ一人この苦難のうちより大文明が創造されるものだと考へてゐたのでした。皆が失望してゐるにも拘らず

たゞ一民族の理想を持つてゐたのでした。そうしてゐると彼の理想が皆の中に傳はつて世界の歴史の中に消すことの出来ない大文明を創造したのでした。法律のことにしても日本の憲法は申すに及ばずその根底をなす先進國の法律はすべてこのモーゼの法律に源を發してゐます。文學にしても驚くべきものが生れ出たのでした。これ等はたゞモーゼ一人の理想した事が源で起つたものであります。

それで私共はこの目出度い國を永遠に持ちこたへ、又自からも永遠の生命を持つためには、この理想、この信仰を持つて行かねばなりません。この行き方を私共はしたいものです。五十年、否二十九年八月のこの生命の中にどんなものが見出されるか考へねばなりません。この工場でも、工場長でなくとも一職工でも、眞に人に幸福を與へんといふ心から、神の導きに從つて奉仕したいといふ考へで働き出すならば、その仕事には神の後光が宿るのです。今日上の方の工場で少女が小さい仕事をしてゐましたが、この方々にも神の心が宿るやうに愛の心を持つて働きますやうにと見てやつていたゞきますならば、その方々から後光がさして來るのです。そして、その小さい製品からも眞に神様がお作りになつたやうな光がさして來るのであります。人に眞の

幸福を與へたいといふ念願をもつて仕事をやるならば、紙一枚を作るにも神の心が表れるものと思ひます。

昔波多野鶴吉翁が屑糸を扱つてゐるうちに、神様が日本に世界にまれなる生糸を與へたといふことはこれによつて生活を安定せしめ、多くの人を幸に導くのだといふ信念をもつて二三人で糸を造つて之をアメリカに送つたのでした。その頃ウイリアム、スキナーといふ方が繭業會の會頭となつて日本から生糸を購入することを色々と研究してゐるうちに、多くの粗製品のうちにこの工場の少しの糸を見出したのでした。この糸には後光がさしてゐたのでせう。にわかにはこの人が夫婦で遠い亞米利加から丹波の山の中にやつて来て、幾らでも送つてくれと願つて歸つたのでした。この程養子の林一君がこの郡是製糸の専務を継ぎましたが私はこの事を書いて林一君に父の如くなれとおすゝめ致したのでした。この工場でも同様實に皆さんの幸福はそこから流れて來るのです。私共は親鸞を考へ、この生活はちがつて居る、彼の如くならねばならないと考へるとき、親鸞がその内に入つて來るのです。親鸞のやうに如來を信ずれば親鸞がそのまゝ、如來になるのです。彼を見て如來を直感するやうになるのです。現今

若い青年が多く私を訪ねて來て、神が解らないと言つてゐますが、これは如何に日本に神に遠い生活をしてゐる人が多いかわかるのです。人が本間に神様はどんな方であるかと聞くならば、私はそれは本間が神の如く生活しない證據だと申したい。キリストは『我を見し者は神を見しものなり』と言はれたがキリストに神が現れてゐるのです。

さてこの『信』の事ではありますが、どうすれば信仰に入れるかといふのですが、私は私の考へてゐることを少し申し上げて見たいと思ひます。只今申しました通り宇宙に不思議なものは信仰であります。先づ人を信ずる時には人から信ぜられるやうになるので信といふものに於て人間に著しい『變化』が起るのです。この私がこの方を信ずるとなれば今まで何でもなかつた關係のこの方が私を信ずるといふ風に變化します子供を信ずれば子供から信ぜられるやうになる、世の人々を信ずれば、世の人々から信ぜられるやうになる。即ち地獄はたちまち變じて極樂となるのです。も一つは人間は一人で一人相撲をとつてゐたのでは、よき人になることはむづかしいが、人を信じ神を信ずることによつて今までの困難が變じて容易となるのです。何が苦しいと言つ

て人を疑つてゐる程の不幸はありません。疑は信仰の反對で私共自身を崩すものです。工場でも之があやしいと皆さんが疑へばたちまち倒れてしまひます。信のない所に進歩成長はありません。「信」のない所に「新」はないのです。親鸞のやうに佛を信ずるとき佛となり、キリストは神を信じて神になつたのです。佛も親鸞に於て變り、キリストに於て神も變つたとも言へませう。又人は平和でなくては信仰を得ることは出来ません。金があり地位が高くて平和だと考へてはなりません。病氣によつて、金がなくなつて平和が破れるやうなものは眞の平和ではありません。私共は破れない平和即ち神を信ずる平和を持たねばなりません。これなくして生き生きとした眞の信仰生活を送ることは出来ません。例へば私が友を信ずる時一つの新しい働きが起つて來ますが、神を信ずるときに、神が私共に入つて來て、喜びが溢れ平和がもたらされるのです。この喜びのない人生は丸潰れの人生です。喜びの生涯を送ることが出来なければ毎日九分九厘まで泣いて暮さねばなりません。友を信じ、家族を信じ、神を信じてキリストの如く人生を過さねばなりません。これは誰にも出来ることです。我國には古來信仰といふものは大變高い困難な事だといふやうに考へられて來ましたが、一面

信仰はどなたにもたやすいものだとは私は申したいのです。私共は神に依り神を信じて神の生命が私共に入りこんで來ることを望まねばなりません。これに就いて大切なことは私共は何をおいても人を信ずることに熟練しなければならぬ事です。

私は今朝も考へたことですが人生の道中を考へて來ますと、私共の生命の根源になるものは忍耐の力であるが、この忍耐こそは、すべてを愉快に過し得る人間の生命だと思ひます。この忍耐に就きましてはこの前に參りました時にも皆さんと共に考へたことでした。これは非常に大切な點でございます。自分自身に對し、他人に對し、同輩に對しても目下に對しても、味方に對しても敵に對しても、大きい事に對し、將又小さいことに對し、すべて忍耐を持つてゐなければ駄目です。この忍耐の力はどこから來るかと思ひますと、これは小さい私共自身につかまつてゐては駄目です。如來の如く大きいものを目宛にしてゐなければ忍耐の力を得られず破れてしまひます。どうか私共は忍耐し得る人になるやう神に祈りたいと思ひます。神に目を注ぎ神を目標としてはじめに忍耐が成就するのです。一度に大した忍耐者になり得ずとも段々に完成されて行きたいものだと思ひます。

又人を許すといふことは大切であります。これも小さい私共自身につかまつてゐては仲々人を許せません。大きいお釋迦様の人格にふれて行くときにはじめて出来ることです。要するに私共は友を信じ、社會の人を信じて行かねばなりません。そんな人に信じてばかり居たのでは、世の中に善良な人々ばかりならいざ知らず、悪人たちによいかげんにされてしまふではないかと言はれるかも知れませんが、私はさうではないと思ひます。疑つて成功するよりもむしろ信じて失敗した方が生き甲斐のある神様のやうな生活を送るものと私は思ひます。甚だ大膽のやうですが、これではなければ眞劍な信仰は達することが出来ません。人に對してこの人は善き人だとか悪き人だとか調べるのに、銀行で身元を調べてからお金を貸すやうに、過去の事を調べてゐますが、それではいけません、昨日もお話した事ですが人の人格は信ずることによつて相手に現れて來るものです。

信仰のことをどうでもよいと考へてゐる宗教はないと思ひます。信仰さへあれば何もなくともよいとキリストは教へてゐますが誠にさうだと思ひます。

信仰は御存じのやうに古來人間の手の届かない事を樂々とやつてのけてしまひまし

た。實に不思議な數々の奇蹟をさへ見せられてゐます。人間の大切な結婚をするにしても、色々なことをひどく調べてゐますが、しかし人格はさういふ調査ではわかりません。少々大膽ではあるかも知れませんが、信ずる時にはじめて人格が現はれるのです。神様と私との間柄も調べて見ればわかりません。尤もこの頃は『神様の戸籍調べ』などいふ書物もあるやうですが、同様人格と人格との關係は信といふものなくしては分りません。よく私を訪ねて下さる牢屋から出て來た方々に對する時、私はこれ等の方々もすべて神の子であると考へて對するのでその方々は非常な驚きを表し、自身の考へ方が大變な誤りだつた自分も亦神様の子であることを知らなかつたと言つて喜ばれるのでした。私共は決して廣い原野をトボ／＼行く一人ではなく慈愛深い神の子であることを考へる時一切の不安も、悲しみもなく、貧乏であることも將又金持であることも何の差もなく考へられるのであります。私は昔山口縣に參つて仕事をした時にはお金は一錢三厘しかありませんでしたが、私にとつては一億三千万圓も一錢三厘も同じです。なくてならないものは信仰によつて與へられると信じて居ります。又私は昔海軍兵學校に講演に行きましてあの學校に保存されてあります多くの珍らし

い海軍に關する寶物を拜見致しましたが、校長の谷口大將——その時は中將であられたが、——に『閣下にこんな珍らしい參考品を集めてゐることを世界中に手紙を書いて知らせてごらん下さい。さうすれば、世界の各國もきつと我事のやうに喜んで進んで貴重な參考品をも送つてくれるにちがひありません』と申したのでした。早速手紙を各國に出されたやうですが、數年後行つて見まして、實に驚きました。内國は申すまでもなく世界中の海軍の貴重な參考品が一萬有餘點送られて來てゐました。此等を保存するために目下教育參考館を建設するに當つても三十萬圓四十萬圓もの大金が私の微力を以てしてどうして工面をすることが出來ませう。しかしそれも成ると信じて努力しました時にその三十萬圓は與へられました。何事も信仰を持つて進むときに出來るものだといふことを申し上げたばかりでございます。

私共は偉さうに考へこんでゐますが子供に就いてもその眞の光を見得ないのだらうと思ひます。子供を信じ子供の眞實を見なくてはなりません。私共の子供は、私共が信仰を持つて見るときに、そのまゝの姿で來た天の使であることがわかるのです。その一擧手一投足から大きい無言の教訓を戴くことが出來るのです。この工場を榮えし

める眞の智慧はこのアンヨも出來ぬ子供が示してゐるかも知れません。教育家でもさうだ。ペスタロッチは何が出來ましたか。數學は皆さんの何分の一も出來ませんでした。たでせう。ところが彼が子供を生んで、その子供を見、今日までの考へが間違つてゐた。之を育てるには日本で言へば如來にすがつてその力によつて教育せねばならないと考へたのです、彼の教育觀が變つて子供が胎内に居るうちにも神によつてその光が見出されねばならないと考へたのです。これが彼の新教育です。私はこの間家に歸りました時に私の家の近所で小さい子供が二三人寄つて何か話し合つてゐるのです。私はそつとそれを聞いてゐましたがその中に私の孫も居りました。話はこの町で誰が一番偉いかといふので、一人の子供は川島中將閣下が一番偉いとか或は誰が一番偉いといふのか言ひ合つてゐましたが、私の孫は『この町で私の祖父さんが一番偉い』といふのです。『何故かと言へば私を一度も叱つたことがないから』と言つてゐました。私はこれを聞いて非常に感動しました。私はまだまだなつてゐない。私の孫に對する態度は孫の私に對する信頼に比ぶべくもない。この話を聞いてこれによつて私の心の鏡を落して下さるのだと感じたのでした。私共は子供さんの中に大きい教訓の光が輝い

てゐるのを見ねばなりません。神は私共が天地の道を知り、浄土への道を示さんために子供を與へ給ふのだと思ひます。妻にしても、共に勤める友にしてもすべてさうです。

どうか皆さんの上に神の愛が與へられて、この日立が金銀銅鐵による世界第一の工場となるばかりでなく、皆さんが信仰に進み神の光が表れて我が愛する日本の光となることの出来るやう祈る次第でございます。

いつ参りましてもお世話にはかりなりましたして何のお手傳も出来ませんで申譯もございません。皆様の奥様方にもたくさんお目にかゝりまして大變お世話になりました。お懐しい皆様とはこれで五回お目にかゝりましたが大變御立派に榮えてゐられるのを拜見致し喜しく存じました。尙益々信仰によつて平和な樂土を建設されんことをお祈りする次第でございます、どうか私のためにも皆様お祈り下さるやう御願ひ致します。大變長い間お世話になりました有難たらう存じました。

——(祈)——

昭和十年二月二十日印刷
昭和十年二月廿五日發行

編輯兼發行人

江野島 尙二郎

印刷人

東京市神田區鎌倉町二三ノ四
朝比奈 慶治

印刷所

東京市神田區鎌倉町二三ノ四
國進 社

發行所

東京市麹町區丸ノ内二丁目二十番地
日立評論社

終

